



## 「ぶらり寺家町」

新年が明けました。本年も加古川北高校、「ぶらり加古川」をよろしくお願ひ申し上げます。

さて、新年最初のぶらりは加古川の中心地である寺家町を紹介します。寺家町は加古川町の大字で、常任寺・鶴林寺その他縁のある寺院に基づく地名です。当時、寺は比較的莫大な領地を所有し、その寺領を公文職が管理していました。これらの寺職を寺家と称し、寺家によって起こった町のことを寺家町といいます。

さて、加古川駅前の変化には目を見張るものがあります。私が昭和59年3月に加古川駅に降り立った時と比べても隔世の感があります。駅前の現在ヤマトヤシキはない状況でした。現在、寺家町の一角にマンション建設が進み、昔懐かしい店も姿を消しつつあります。

本号では、寺家町商店街を歩きながら、すばらしい文化財を紹介します。

寺家町商店街を西に進み南に向かうと、称名寺という寺院があります。ぶらり第11号「加古川に点在する城跡」で紹介しました加古川城跡です。ここで秀吉の軍評定が行われ、別所氏等が反旗を翻すきっかけとなったことで有名です。

再び寺家町商店街に戻り、西へ進むと右側に人形店が見えてきます。屋号は「陣屋」です。その名からもおわかりのように、姫路藩加古川陣屋であったことがわかります。現在もその跡として接待の間が現存し、加古川市指定文化財に指定されています。加古川は関が原の戦い以前は、糟屋氏の城下町として賑わっていました。糟屋氏改易後、姫路藩の領地となります。加古川陣屋は、宝暦二（1752）年に建造され、参勤交代のために加古川を通行する大名に対する応接をする場所として利用されました。その名称を屋号として今に残しています。

最後に、国の登録文化財として貴重なものが陣屋から少し西に進むと「神田家住宅洋館」があります。瀬戸物商を営んでいた神田家の応接施設兼倉庫として、大正時代に建てられました。平成15年に老朽化により危険箇所の幾つかを撤去して取り壊され、その結果、前面の洋館、後方に倉庫兼作業場が現れました。気にしなければ見過ごしてしまう文化財ですが、日本の近代化を支えた建物として見ると意義深いものを感じることができるのではないのでしょうか。

